

平成21年度「金沢ユネスコ・スクール推進事業」実施報告書・各学年情報シート

学校番号	44	学校名	金沢市立 朝日小学校
学年	3年	テーマ	環境教育

「金時草」

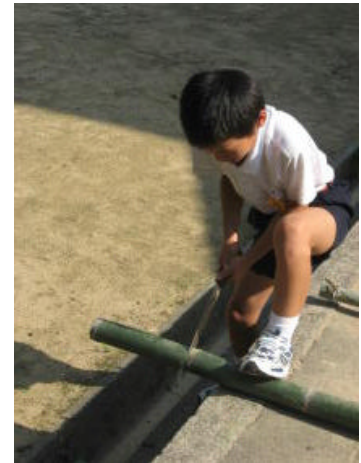
～朝日といえば、金時草。金時草といえば、朝日地区。～

1 主な学習内容

子どもたちは、社会科の学習で行った校区探検で、朝日地区にはたくさんの金時草畑があり、そして、その畑のそばには洞穴のようなものがあちこちにあることを発見した。当然のように子どもたちの心には、「あの洞穴は、なんだろう。洞穴を探検してみたい。」という思いが強まっていった。

その後、地域の方に、その洞穴を見せていただくとともに詳しく説明していただく機会を設けた。

『金時草は、ほとんど種ができない植物である。そのため、金時草はあのような洞穴（むろ）に、冬の間、わずかの葉と根に土をかぶせてを保管しておき、春になって畑に植え替えることで、また大きく育てることができるんだよ。』



お話を聞いて、子どもたちは、朝日地区の金時草に大いに興味を持つことができた。

洞穴の中で冬越しする金時草の生命力を調べるために、「葉1枚でも根が生えてくるのか」水栽培の実験を行い確かめた。また、金時草は栄養価が高く、血圧を下げたり、老化を防いだりする効果があることを調べた。しかも、その金時草の生産日本一が自分たちの朝日地区であることを発見し、子どもたちは、金時草のすばらしさを感じるとともに、朝日地区を誇りに思うようになった。

地域の農家の人にアドバイスを受けながら、学校農園での金時草栽培を行うかたわら、「日本一の金時草生産地が、なぜ、朝日なのか」という疑問を解決していくことになった。社会科の金沢市見学で見てきた安原地区の畑の写真と朝日地区の畑とを比較することによって、子どもたちは、朝日地区が、金時草の栽培に適した環境（日照条件、気温、土質、畑の地形）なのではないかと予想し、金時草栽培農家Sさんに聞いてもらった。予想を認めていただくとともに、さらに大切なことを教えていただいた。それは、「商品作物として、売れなかった昔、少しずつでも栽培を続けてきた地域のご先祖様のおかげがあって、今の日本一がある。ご先祖様が途中で栽培をやめていたら、種のできない金時草は今世の中になかったかもしれない。金時草の栽培をこれからもがんばっていかなくてはならない。」という、熱い思いだった。子どもたちは、金時草を大切に思うとともに、地域や、金時草を育てがんでいる地域の人たちに対して愛着を深めることになった。

金時草は、見た目のむらさきも鮮やかで、食感も良く優れた商品作物ではあるが、他の作物に比べてまだまだ知名度が低い。そこで朝日校区では、金時草を世に知らしめ、販売の促進のために、「金時草祭り」が行われている。その祭りは、公民館を中心に多くの地域住民の協力によって運営されている。金時草を学習してきた子どもたちも、金時草のすばらしさをたくさんの人に伝える手伝いをしたいという思いになり、金時草の新しい料理

を考え、自分たちのお店を出すことになった。自分たちで育てた金時草を使って、作ったアイスやジャム、パンを販売するとともに、学習してきたことをパネルにして展示した。地域行事に参画し、役に立つことができたという満足感を与えることができた。そのほか、学校での集会はもちろん、金石町小学校、能登青少年交流の家など様々な場を利用して金時草のすばらしさを発信してきた。

そのほか、金時草の鮮やかな緑色を生かすために、草木染めにも挑戦している。

## 2 持続発展教育の視点

子どもたちは、栽培、観察実験、聞き取り調査と、自分の五感を通して金時草のすばらしさを感じ取り、金時草を代表として朝日校区に強い愛着を持つことができた。また、実際に金時草を栽培している人、栽培をしているわけではないが、金時草を通して地域の活性化のためにボランティアで働く人たちの思いを感じ取ることができた。他の地域で金時草以外の産物や文化を大切にしようと努力している人たちのことを知った時、自分の生き方について考える一つの経験になると考える。